

ITOSUGI



いとすぎの丘



卒業式



入学式

災害救護員研修

Pick Up



平成26年11月、本学を会場に日本赤十字社愛知県支部主催の災害救護員研修が行われました。研修には本学の学生も参加し、大規模災害が発生した際に迅速に対応できるような能力を身に付けるため真剣な態度で取り組んでいました。



カンボジア支援実習

- 卒業式、入学式
- 大学行事
 - カンボジア支援実習
 - RCT☆LINK
 - 日本赤十字社救護員研修
 - 研究の窓
- Information

修了生・卒業生、 新入生のみなさんへ

学長 安藤 恒三郎

東日本大震災および福島原発事故から4年が過ぎました。現在も多くの方が避難生活を余儀なくされていることに心を痛めます。復興事業が継続されていますが、本学の学生は昨年も自ら手を挙げて被災地域で環境回復ボランティア活動に参加しています。「人間を救うのは人間だ」という赤十字の人道精神そのものでした。

本学看護学部は開設後12年目を、大学院修士課程は6年目を迎えますが、昨年までに974名の看護学士を、15名の看護学修士を送り出しております。平成27年4月からは災害看護学の修士課程をあらたに創設いたしました。

大学院修了生・看護学部卒業生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんに授与された「修士」「学士」の学位は、みなさんの学業の証です。ここに至るみなさんの努力に心から敬意を表します。修了生のみなさん



は、仕事を続けながら研究論文に取り組むという厳しい環境の中で、立派な成果をあげられました。今後それぞれの専門分野の指導者として医療現場等で活躍されることを確信しています。

卒業生のみなさんには、私の好きな言葉「誠」を贈ります。誠という漢字は「言、いう」と「成、なる」から出来ています。「言ったことを成す」、文字通り相手を裏切らないということです。社会人1年生の看護師として、ぜひ心しておいていただきたいと思います。

新入生のみなさん、入学おめでとう。大学院生のみなさんは、すでに看護師として立派に社会で活動されています。その多忙な日々の中にも向学心を失わず大学院に進学されたことに敬意を表し拍手を送ります。

看護学部に入學されたみなさんは、大学入試の厳しい難関を突破して本学の第12回生として見事入学を果たされました。本学は赤十字精神を身につけた看護専門職を育てる大学であり、看護学を通じて生涯を貫く感性・知性を磨き育てる学び舎です。成人病を生活習慣病と呼ぶことを提唱し100歳を超えてなお現役で活躍されている日野原重明医師は、「良い習慣はあらゆる可能性の下準備だ」と述べておられます。大学生活はどうあるべきか自分自身でよく考え、大学生としてぜひ良い習慣を身につけてください。そして、学生生活を充分楽しみ、いろいろな人との繋がりを実感し、人間性に磨きをかけてください。

卒業式



修士課程を終えて

135008 立松 あき

今、子どもの頃のクラス替えのようにワクワクしながら臨んだ2年前の入学式を思い出します。私は、助産師として10年病院で勤務し、母性看護専門看護師を目指して大学院に入りました。講義を中心に受講した1年目、境遇も年齢も志も異なる同期生と交わす議論は新鮮で非常に面白く、あっという間に時間が過ぎてしまいました。2年目、臨床実践実習では、自分の看護を振り返るだけでなく、普段はなかなか知る事の出来ない他の看護師の看護実践や看護への思いに触れることができ



ました。研究では、その方法はもちろんのこと、研究の面白さも学ぶことができました。大学院は、誰も何も細かく「指示」をしてはくれませんから、何でも自分で考え、決め、管理し、行動しなければなりません。しかし、受け身ではなく、自分で切り開いていくことこそが大学院の醍醐味なのだと思います。指導教授はどんな時も、私が「自分で気付く」ことができるよう導いて下さいました。追いつめられた日もありましたが、終わってみれば素直に楽しかったと言えますし、直観を信じて飛び込んで良かったと心から思っています。また、もっともっと学びたいという気持ちで修了を少し寂しくも思います。まだまだこれからです。先輩方との良いご縁も頂きました。不安もたくさんありますが、理解ある職場の上司、支えてくれた同期生、お世話になった先生方に感謝の気持ちを込めて、これから再び歩き始めようと思います。

災害救護に関わる看護師に

看護学部新入生 北川 楓華

私が看護師を目指したきっかけは、東日本大震災のボランティアに行ったことです。そこで、災害救護について興味をもちました。詳しく調べると、災害の起きた実際の現場では人手不足のために、身内を亡くした医療者が心に不安を抱えたまま職務に当たっていたという事実がありました。また、被災者の方々が抱えるストレスの大きさやサイバース・ギルドの問題を知り、災害救護での看護師による心のケアの必要性に気づき、少しでも役に立ちたいという思いから、災害救護に携われる看護師を志しました。



ました。

将来、私達が接する相手は性格・趣味・価値観・生活環境・職業・家族などが人それぞれであり、また、その方を感じる豊かさや幸せも人それぞれです。私は看護師にとって大切なことは、患者が医師には言いにくいことでも看護師には気軽に話せるような医師と患者の心の架け橋のような存在であることだと思います。そのため、看護師にはあらゆる価値観を受け入れられるような広い視野が必要とされます。大学生活の4年間で沢山のひととの関わりを大切に、少しでもその視野を広げたいと思います。

私達は、東日本大震災や御嶽山の噴火で被害に遭った方のために困難の中救護に当たっている赤十字の方々の様に、豊富な経験や技術を備えると共に、優しさや的確な判断力もある看護師を目指します。これまで応援してくれた方々に感謝し、これからの大学生活を有意義に過ごしていきたいです。

入学式



大学生活を振り返って

看護学部第8期卒業生 服部 愛

4年前、私は看護師を志し、新しい出会いへの期待と、4年間やっていけるだろうかという漠然とした不安を胸に、入学してきました。実際に講義や学内演習が始まると、これまでとは違う学習内容に戸惑うこともありましたが、看護師に少しずつ近づいているという実感が嬉しくもありました。看護学実習では、初めは何よりも不安が大きく、実習前日は眠れないこともありましたが、未熟な私を受け入れて下さった患者さんの存在が私のモチベーションとなり、日々一生懸命取り組むことができました。



実習中、講義で学んだことがうまく生かせなかったり、個性ある看護ができなかったりと、悩んだこともありました。そのような時には、先生方や実習指導者の方々がよりその人にあった看護ができるよう、一緒に考え、助言をして下さいました。また、多くの時間を共有し、辛いことも嬉しいことも共に乗り越え、支え合った仲間が存在に何度も助けられ、ここまで来ることができました。

私はこの4年間で看護についての知識を学び、実習では患者さんとの関わりから、そこでしか学べない貴重な経験を多く積むことができました。また、友人や先生方、そして家族といった多くの人々に支えられていることを実感しました。本学で学んだ知識や経験、そして周りへの感謝を忘れず、自分の理想とする看護師になれるよう、新たな気持ちでスタートしていきたいと思います。



カンボジア支援実習

カンボジア支援実習を終えて

川島 由好

カンボジアで過ごした8日間は、とても充実したものでした。今回のカンボジア訪問に当たり、私たちは事前学習から現地の様子について理解を深めるとともに、現地の支援内容についてなぜ今このような支援が必要なのか、関連性についても考えました。

今回の訪問では、現地の赤十字社の他に、国際支援機関であるJICA・SHAREと、UNICEFに訪れることができました。どの機関においても現在のカンボジア



現地の人々との集合写真

の様子に重点を置くのではなく、数年、数十年先のことを重点に置いて、今活動しているということを、説明を通じて学ぶことができました。また、この実習では母子健診の視察を目的に中央から離れた村にも訪問しました。子供たちは最初慣れない様子でしたが、次第に笑顔をすぐ傍で見せてくれました。村全体が暖かい雰囲気で、どこか懐かしい感じがしたことがとても嬉しかったです。

たった8日間では探し切れないほどカンボジアには良いところがあり、それをみなさんにも実感して欲しいと強く思いました。

RCT☆LINK

「志」を持つということ

2年生 大宮 友梨恵

「人道」という概念は赤十字基本原則の1つであり、ネットワークを支える重要なキーワードですが、私自身赤十字社の看護学生であるのに関係なく、人として常日頃備えるべき志なのではないかと感じています。

日本赤十字豊田看護大学に入学して2年が経ちましたが、「あらゆる状況下において、人間の苦痛の予防と軽減に努めます」という意味がこめられている「人道」という言葉の存在は、私が授業や演習で学ぶ中で、看護倫理の視点においても本当にその方の苦痛の軽減になっているのだろうか、と見直す指標となっています。私は普段から周りの人への気配りに欠けることがあり、実習中もそのような短所からアセスメントや援助計画を指導されてばかりいました。しかしその度に自分の原点、背景にある「人道」に気づかされ、人間として求められるべき姿を最大限に活かさなければならぬ、と最後まで患者さんと向き合うことができました。

昨年参加したサークルの東北ボランティア活動においても、少しでも支えになれば…、心の負担を取り



サークル活動の様子

除けられれば…、という思いがあり、目の前にいる人にとってのベストを私なりに考え行動することができました。

入学して2年、大学生活も残り2年という分岐点に立っている今、私は将来緩和ケア病棟や慢性期病棟で働きたいという夢ができました。それはこれまで述べた人道の大切さや、人として関わりあえる魅力のある職に気づきを持てたからです。まだまだ壁にぶち当たるであろうこれからの学生生活ですが、これからも持ち続けるべき志を忘れず本当の「看護」というものを学んでいきます。

Next RCT LINK⇒2年生 林 沙希子さん

日本赤十字社救護員研修

日本赤十字社救護員研修に参加して

小児看護学 講師 山田 恵子

平成26年11月、3日間の日程で日本赤十字社救護員研修に参加しました。1日目は愛知県支部にて救護班編成や救護員の役割について学習しました。机上シミュレーションでは、架空の駅の300m手前で電車が脱輪、負傷者多数という設定で、道路の閉鎖や危険ゾーンと準危険ゾーンをどのように分けるか、救護本部をどこに立ち上げるか、トリアージ後の負傷者をどこで救急車に乗せ搬送するかなど、救護をする上で切り離せない警察や消防との連携について学びました。

2日目は無線のついたワゴン車に乗り、愛知県支部か



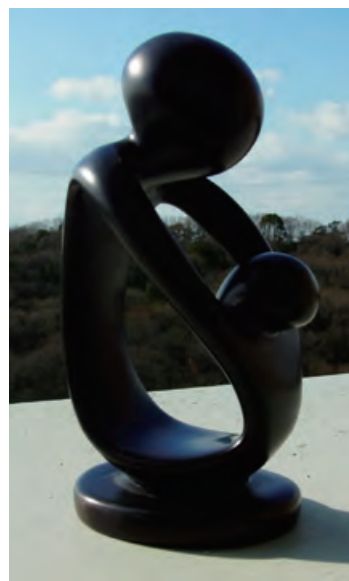
ら日赤豊田病院（本学）を目指しました。名一、名二から合計4台の救急車が発出し、途中のPAで合流、高速出口で警察の先導の元、本学へ向かいました。途中の一般道で母に手を引かれた小さな子どもが、警察車両と救急車に目を丸くしていたのが印象的でした。到着後、「第一班救護班10名到着しました」と挨拶し、本格的なシミュレーションの始まりに不安と緊張が高まりました。研修では本番さながらにテント内での負傷者のトリアージと初期観察および全身観察を行い、ホワイトボードに負傷者の状況を記入している間に挿管したはずの傷病者が亡くなっていました。チューブ類をはずし、目を閉じ家族役の学生に声をかけながらも、横にいる負傷者の観察に入る・・・なんともやるせない気持ちでした。その夜は、体育館に設置したテント内で寝袋を引いて寝ました。ボランティア団体の方々が、体育館の床にお湯を流したパイプを設営して下さったおかげで温かく寝ることができました。この研修を通して、様々な組織や団体との連携の重要性を学びました。1泊3日の過酷な研修ではありましたが、大変有意義な経験となりました。学長はじめ研修に参加するにあたりご協力いただいた教職員の皆さまにこの場を借りて深謝いたします。

研究の窓

統合創造看護学創設への夢

精神看護学 教授 村瀬 智子

私は、子どもの頃から、密かに考古学者になりたいと思っていた。古代文字、古代文明、古代遺跡、古生物など、今でも考えるだけでわくわくして心躍る。古代の人々は何を思い、どのような環境の中で、どのような暮らしをしていたのか。想像は次々と膨らむ。古代の暮らしの中で、病む人へのケアや癒しの技は、人としての自然な振る舞いだったのではなかろうか。なぜなら、自然科学が発達し、現代のように学問が細分化されるまでは、医学も看護も、そして宗教も芸術も、すべては日常の中で一つに融合していたからである。一方、現在の看護の潮流は、専門領域の細分化と高度なスペシャリティの育成が中心である。私は、25年前に母校の日本赤十字看護大学で基礎看護学を教育する立場になって以来、上司の樋口康子先生と共に看護学を統合する道を模索し続けた。また、日本文化の中から新看護理論を生み出すことが夢であった。今、私は、再び、赤十字の大学で、夢を実現するべく、ライフワークとして3つの研究を進めている。それらは、「看護哲学を基盤とした統合看護学の創成」、「統合看護



母子の像

理論の構築」、「環境看護学の創成」である。これらは別々な研究内容ではなく、いずれもつながりがあり、学際的な視点が欠かせない。

未来の看護を担う学生の皆さんには、既存の枠組みにとらわれず、自分にしかできない研究を目指してほしい。

Information

平成27年度入学試験結果

学部	入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
一般入試		50	500(55)	496(55)	143(9)	3.5	62(5)
センター利用入試		5	208(23)	208(23)	59(6)	3.5	10(4)
高等学校長推薦入試		30	57(4)	57(4)	30(0)	1.9	30(0)
日赤中部各県支部長推薦入試		30	38(5)	38(5)	34(4)	1.1	34(4)
社会人特別選抜入試		5	5(3)	5(3)	3(2)	1.7	1(0)
計		120	808(90)	804(90)	269(21)	2.9	137(13)

大学院	入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規合格者数	実質倍率	入学者数
大学院入試	前期	10	4(1)	4(1)	4(1)	1.0	4(1)
	後期		3(1)	3(1)	3(1)	1.0	3(1)

※()内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。

第12回いとすぎ祭（上半期）

○第12回いとすぎ祭○

開催日時：平成27年5月23日(土)

場 所：日本赤十字豊田看護大学学内

内 容：講演会（慈恵病院理事長 蓮田太二様）

テーマ「いのちを救う

こうのとりのゆりかご」、

各種模擬店、ステージショー、

ヘルスチェック、非常食炊き出し

フリーマーケット、献血 他

○オープンキャンパスmini○

開催日時：平成27年5月23日(土) *いとすぎ祭と同時開催

○オープンキャンパス2015○

開催日時：①平成27年7月18日(土)

②平成27年8月21日(金)

参加方法：ホームページ申込みフォーム（準備中）

もしくは企画・地域交流課0565-36-5228まで

平成27年度新任教員

教 授	長谷川喜代美	地域看護学	助 手	野田 明敬	基礎看護学
准教授	石黒千映子	成人看護学	助 手	三輪 卓万	基礎看護学
准教授	原田 真澄	精神看護学	助 手	斉藤 香織	基礎看護学
助 教	村瀬ゆかり	母性看護学	助 手	藤村 潤	老年看護学

平成27年度新任職員

総務課長兼経理課長	小林 寿
総務課主事	松尾 匠
学務課主事	谷川 歩
学務課主事	北村紗起子

編集 後記

色とりどりの花々が咲き乱れる美しい季節となりました。美しい花や木々の間を飛び回る幼い鳥たちの小さな姿も目に映るようになりました。

3月の卒業式では、6名の修了生と133名の学部生が大学を巣立っていきました。

今頃はみなそれぞれの環境の元、まだ慣れないながらも励んでいると思います。

大学も12回学部生、6回修了生を迎えました。入学してまだ1か月の初々しい姿が印象的です。いとすぎの丘vol.21では、卒業式や入学式の様子を紹介しています。

今年度のいとすぎの丘は豊田市との共同開催講座の記事の掲載なども掲載していきたいと思っておりますので、これまで同様ご愛読いただきますようお願いいたします。

21号の発刊に際しまして、ご協力いただいた皆さまに深謝いたします。

いとすぎの丘 Vol.21

発行日／2015年5月

編集・発行／日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画・地域交流課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-36-5256

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <http://www.rctoyota.ac.jp/>